

### 身近な 草・木・花〔5月〕

**エゴノキ** エゴノキ科、落葉中木 花期；5～6月

場所；2号棟南側、6号棟北側、10号棟西側、8-9号棟間北側法面など

降りたての雪のように、あるいは白いベルのように、枝いっぱい垂れさがって咲く花はなかなか見事です。そしてほのかな香りが漂ってきます。

和名は、“果実を口に入れると喉や舌を刺激してえぐいことに由来する。ただし、この果皮にはエゴサポニンを含み有毒である”とのこと。有毒な果実を口に含むことが和名の由来とは、どこか矛盾しているような気がするが？



(写真上 14 5/20 2号棟南駐車場)

ところでこのエゴノキ、花も見事なら、その落花も見事である。年により花付きの様子も異なるので毎年見られるとは限らないようだが、ぜひ静寂(しじま)を封じ込めて散り敷く落花をご堪能あれ。(写真右 2009 5/13 2号棟南)



この場所のエゴノキは、今年は全然花が咲いていませんね。駐車場側(写真上)のエゴノキの花、そして落花がすごいですね。

**ヤマボウシ** ミズキ科、落葉高木 花期；5～7月 場所は中央広場と6号棟南側

ヤマボウシはハナミズキの仲間、花の形がどこかハナミズキに似ている。が、実はこの白く先のとがった4枚の花びらに見えるのは総苞片(そうほうへん)で、中央の黄緑色の丸い部分が小さな花のかたまりです。この中央の黄緑色の小さな花のかたまりを僧兵の頭に、白い総苞を頭巾に見立てたのが名前(山法師)の由来です。

(総苞片；苞葉ともいう。花の基部にあって、蕾を包んでいた葉のこと)



(上左) 14 5/20 6号棟南 (上右、右) 14 5/13 中央広場

ヤマボウシの花(苞葉)は(上左)のようなのが一般的、(上右)の様になるのはこの木以外に見た事が無い。なぜなのか？

写真を撮っていると、たまたま松村氏(松村園芸)が来所されたので聞いてみると、「種類が違うのか？それとも、個体差で開き具合が異なるのか？」と首を傾げた。

インターネットのHPを検索してみると、このような花の形も少しは見られる。が、参考になる情報は見つけられなかった。



**シモツケ** バラ科、落葉小低木 花期；5～8月  
場所；中央広場

名前の由来は、下野(しもつけ。栃木県)で最初に発見されたという説と、下野産のものが古くから栽培されていたという説があるようです。

淡紅色の小さな花がブーケのように群れ咲きます。5月下旬ころが見所です。なお、この植物はコデマリと同じ仲間です。



(写真は 15 5/25 中央広場)

**ウツギ** 別名:ウノハナ ユキノシタ科、落葉低木 花期;5~7月(見所は5月下旬)

名前の由来は、枝の中心部が中空になることから。別名のウノハナは、「空木(うつき)の花」の略称という説と、卯月(旧暦4月)に花が咲くからという説がある。

花は純白なベル形で、下向きに枝いっぱいにつける。なかなか美しい。



ウツギの花 (6号棟東、15 5/25)

まさに開こうとしている蕾 (北法面 16 5/13)



場所は、居住区では6号棟東のコデマリの並びの端(左写真)  
法面では北法面の随所に生えている。右写真のように、細い木が株立ちしているのが特徴。



### ヒメウツギ



(写真 16 5/6)

南広場のベンチの脇には、丈が低く、花もやや小さめなウツギがあります。これはヒメウツギと思われます。ただし、花は5月上旬で終わってしまいました。

### サラサウツギ

ウツギでもう一種類、ぜひとも紹介したいのは、中央公園にあるサラサウツギです。

八重咲きのウツギで、花弁の中は白ですが、外側が紅紫色に染まる品種です。(写真 14 5/30)



美しくも可愛らしい花なので、ぜひともご覧になっていただきたい。見所は5月下旬ころです。

場所は、多摩市中央公園。

富沢家からグリーンライブセンターへの道の中ほど、南東側を下る階段の降り口に植えてあります。

(今年行ったら、右の写真のように、傍に看板が立っていました。サラサウツギの説明ではなく、ゴミ捨て禁止の看板です)



なお、ひとつの枝に白や赤や、とりどりの花をつけるハコネウツギは、「ウツギ」という名が入っていますが、スイカズラ科の別の植物です。

(写真左、14 5/20 2号棟西)

**テイカカズラ** キョウチクトウ科、常緑つる性木本 花期；5～6月、

場所;3号棟北側、7号棟北側、自転車置き場後ろのフェンス沿い。4号棟北側階段わき

花の色は白、だが花弁の基部が少しくずれて、風車のような感じの花である。一見、普通の低木に見えるが、よく見ると、つるがフェンスに絡まっている。果実は、長さ15～25センチの細長い袋果で、2個が対になってぶら下がるとのこと。私はまだ確認していないが、変わった形をしているので、気をつけて見ていただきたい。



(写真; 14 5/24 4号棟北側階段脇)

この植物の和名は、式子内親王を愛した藤原定家が、死後も彼女を忘れられず、ついに定家葛に生まれ変わって彼女の墓にからみついたという伝説(能『定家』)に基づいている。

**ユキノシタ** ユキノシタ科、多年草 花期; 5~6月 場所; 8号棟北側法面

和名「雪ノ下」は、冬でも雪ノ下で葉が枯れないで残っているからとか、葉の白い斑を雪に見立てたとか、垂れさがった花弁を舌に見立てて「雪の舌」とか、様々な説があるようです。

湿った岩の上などに生える多年草。

冬の葉の状態は写真を撮っていませんので、3月末の葉の状態を下に示します。この植物も、一度おぼえるとすぐ見分けがつく葉をしています。(写真下左; 15 3/24)

5月初めに、赤い繊毛に覆われた花茎を伸ばしてきます。慎重に取り扱わないと、すぐに折れてしまいそうな感じの茎です。(写真下右; 15 5/4)



(写真上; 15 5/30)



花は上の3枚の花弁が短く、下の2枚が長くてよく目立ちます。そして、上の短い花弁には濃紅色の斑点、基部には黄色の斑点があります

(写真右; 15 5/30 8号棟北側法面)



それにしても、この変わった花がなぜ8号棟の北側斜面に生えているのか? 一か所ではなく数か所に分かれて群生している。

思うに、8~9号棟間付近は鉢植えの土を捨てやすい場所のようで、他にも、ここにあるべき植物でない種類のものも見られる。ユキノシタもそのようにして捨てられ、広がったようにも思われる。

『多摩市の植物目録』にもユキノシタの名が見られ、“逸出”と注記されている。つまり花壇から飛び出し、野生化しているということ。この目録に載っているということは、多摩市のどこに生えていてもおかしくない植物でもある、ということも言える。

### 【トピックス】

ユリノキ モクレン科 北アメリカ原産の落葉高木、樹高が30メートルにもなる レンガ坂の街路樹

レンガ坂の街路樹のユリノキが、5月初め咲き始めました。ユリノキといえば上野公園東京国立博物館のユリノキの大木が有名ですが、レンガ坂の街路樹もおなじユリノキです。明治初期に渡来し、公園樹や街路樹として各地に植えられています。



16 5/6



14 5/30



直径は5~6センチもある大きな花だが、このように樹が高すぎて、肉眼では点にしか見えない。

「花の形がユリに似ているのが名の由来」とのことだが、どう見てもユリの花には見えない。写真を見ていただければ分かるが、これはチューリップの花である。なぜこんな名がついたのだろうか？

実は英名ではチューリップツリー。なのに、「明治年間の渡来の頃にはチューリップもポピュラーではなく、むしろユリノキとした方が分かりやすかったということらしい。庶民のためを思った命名( )」とのこと。

ところで花の形について、前ページの写真の上段(5月始め)と下段(5月末)で様子が異なるのは何か？改めて写真を調べてみた。



(左) 5月初めのものにも萼状のものが写っている。(中、右) 5月末の写真にはこのように傷んだ花が多かった。萼状のものが、萎れて垂れさがっている。

図鑑で調べると、花弁は9枚、外側の3枚は緑白色の萼状でほぼ水平に広がる。内側の6枚でカップ状に並び、黄緑色で基部にオレンジ色の斑紋がある。

先に「花の形はチューリップ」と書いたが、カップだけでなく、萼状のものを含めたのが本来のユリノキの花の形。前ページ上段の写真は萼状の部分が葉の陰で見えなかっただけ。

また、5月初めの写真にも傷んだ花が写っていた。5月下旬の写真はほとんどが傷んだ花だった。つまり、花の寿命は数日から10日くらい、当初は目立たなかった傷んだ花も、花期が終り頃には、傷んだ花が多く、目立つようになるようだ。

このユリノキの花を見るにはぜひ双眼鏡をご用意ください。樹が高すぎて、肉眼ではほとんど点しか見えません。それに下から見上げても見られません。少し離れて、斜めに見上げる角度が見やすいでしょう。クロスガーデンの坂の上の出入り口付近の花が見やすいようです。

**アメリカフウロ** フウロソウ科 北アメリカ原産の帰化植物 一年草。花期は4~9月。

5月6日のNHK朝ドラ『とと姉ちゃん』で、植物研究の帝大生が新種か否かで騒いでいたのがこのアメリカフウロです。もちろん日本への帰化が確認されたかどうかの時なので、和名はまだついていなくて、学名ゲラニウム・カロリニアヌムとして紹介されていました。(写真は16/4/30)



この薄紫色の小さな花はゲンノショウコの仲間で、当団地の東駐車場の後ろ、道路がカーブしている付近の街灯の下あたりに生えています。グリーンライブセンターの花壇の中にも何本が咲いているのを見つけました。

(当団地のアメリカフウロは4月が盛りで、5月半ば、草取り前には種が散っていました)



上はゲンノショウコ(13 9/27)。当地での花の盛りは9~10月で、多年草。アメリカフウロ(前ページ、および右)は花の盛りは4月で、一年草。ゲンノショウコに比べ、葉の切れ込みが深く、草丈が高いようだ。

ところで、ドラマ関連の話だが、アメリカフウロは昭和初期(1932年、昭和7年)に牧野富太郎博士によって発見された( ,HP)。また、とと姉ちゃんのモデル、大橋鎮子(しずこ)の生年は1920年、ヒロインの女学生時代という15~16歳頃、つまり昭和10年頃という事になる。必ずしも年代の整合性が取れているようでもないが、昭和初期のエピソードとしてドラマ化されているようだ。

#### 【参考書】

- 『大人の園芸 庭木・花木・果樹』 濱野周泰監修 小学館
- 『葉っぱ・花・樹皮でわかる樹木図鑑』 池田書店
- 『山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花1』 山と溪谷社
- 『山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花2』 山と溪谷社
- 『山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物』 山と溪谷社
- 『山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花』 山と溪谷社
- 『散歩で見かける 四季の花』 金田一著 日本文芸社
- 『日本の樹木 都市化社会の生態誌』 辻井達一著 中公新書
- 『多摩市の植物目録』 パルテノン多摩

(写真・文；I)